

平成 26 年度 全国学力・学習状況調査における生駒市立学校の調査結果について

本調査は、分析結果から、成果と課題を明確にし、学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てること、また、今後の教育施策に反映させていくことを目的として実施しています。結果は児童生徒の学力の一部分を示しているものです。生駒市の調査の結果及び分析等を以下のとおり取りまとめました。

【調査内容】

<教科に関する調査>

国語 A、国語 B、算数・数学 A、算数・数学 B

(※A 問題…主として知識に関する問題、 B 問題…主として活用に関する問題)

<学習状況調査>

児童生徒質問紙調査（生活環境や学習環境等に関する質問） 学校質問紙調査

【調査対象】

市内 12 小学校 6 年生 1186 名（受検者数 1148 名）

市内 8 中学校 3 年生 1078 名（受検者数 1032 名）

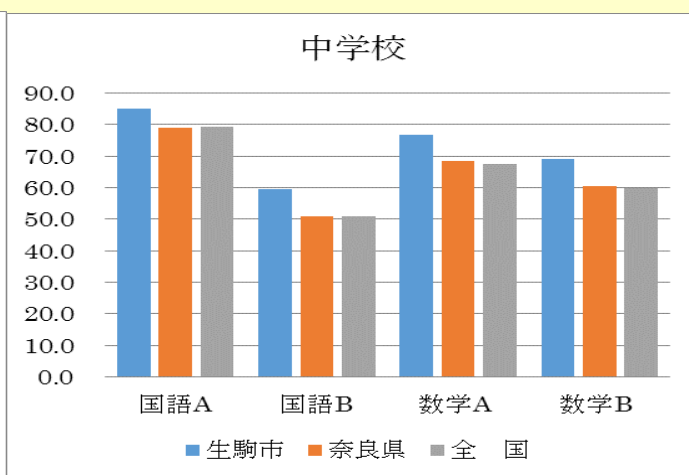
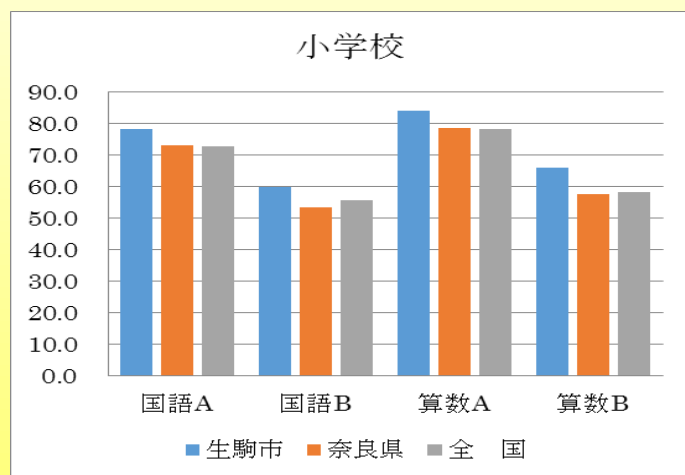
【調査結果】

<教科に関する調査結果の概要>

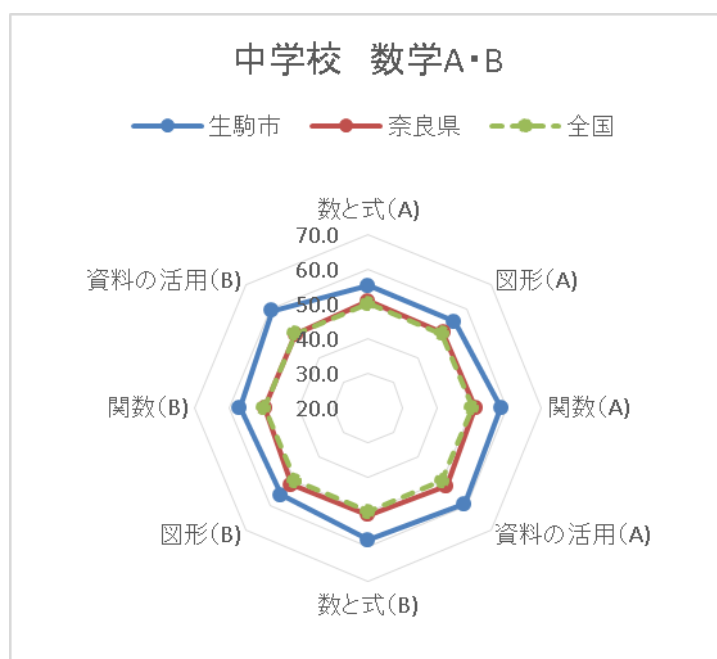
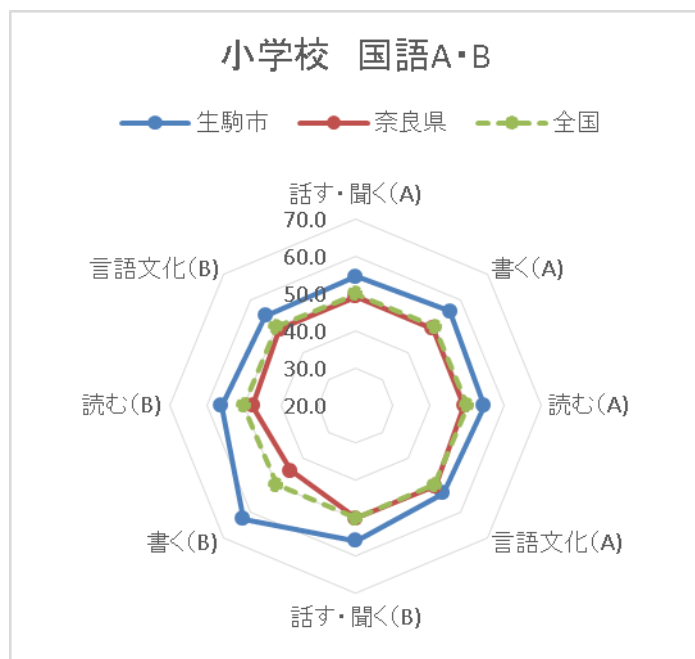
【平均正答率】

- 小中学校ともに、国語、算数・数学のすべての調査について、平均正答率が奈良県・全国を上回っています。これは、学力テストが始まった平成 19 年から同様の状況が続いています。
- 小中学校ともに、A 問題（主として知識に関する問題）に比べて、B 問題（主として活用に関する問題）の平均正答率が低くなっています。奈良県、全国も同様の傾向が見られます。

	小学校				中学校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
生駒市	78.2	60.0	84.0	65.9	85.0	59.7	76.8	69.2
奈良県	73.2	53.5	78.6	57.7	79.0	50.8	68.5	60.5
全 国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8



【領域別正答率】



- 小学校、中学校ともに、国語 A・B、算数(数学) A・B のほとんどの領域において、奈良県、全国を上回っています。
- 小学校国語「書く B」において、奈良県、全国を大きく上回っています。しかし、質問紙調査では、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのはむずかしいと思っていると回答している児童が 57.6%を示しています。中学校でも 70.5%と同様の傾向が見られます。
- 小学校では、質問紙調査で国語、(算数)が好きと回答している児童が 60.1% (63.4%)と低い数値を示しています。平均正答率、領域別正答率が高いにもかかわらず、各教科への学習意欲は低い傾向が見られます。中学校でも(数学)が好きと回答している生徒が 53.0% (55.7%)と小学校と同様の傾向が見られます。

生駒市小中学校児童生徒の学習状況について

< 児童生徒質問紙調査の結果の概要 >

生活について

- 生活について、ほとんどの小学校の児童は同じくらいの時刻に起きて、朝食をきちんと取っています。また、多くの児童は、毎日同じくらいの時刻に寝るなど、全体的に生活習慣は身についています。一方中学校の生徒は、朝食はとれているものの、「毎日同じくらいの時間に寝ている」と回答している生徒は奈良県、全国に比べて下回っており、就寝時刻に不規則な傾向がみられます。
- 携帯電話やスマートフォンを持っていないと回答している児童生徒は、奈良県、全国に比べて少なく、所持率は高い傾向にあります。また、一日の使用時間については、1 時間以上と回答している生徒は、奈良県、全国に比べて低く、持っている生徒の使用時間は、それほど多くない傾向が見られます。

行動や考え方について

- 自分にはよいところがあると思っている小学校の児童は、奈良県、全国を上回り自己肯定感が高い傾向にあります。一方、中学校の生徒は、奈良県と比べて 3.4 ポイント、全国と比べて 5.0 ポイントを下回っています。
(「1 当てはまる」「2 どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は、生駒市 62.1%、奈良県 65.5%、全国 67.1%、生駒市小学校 80.7%)
- 小学校では、将来の夢や目標をもっている児童の割合が高い傾向にあります。中学校は奈良県、全国と比べあまり差はありません。小学校の児童と比べると、生駒市、奈良県、全国ともに 20 ポイント以上の差があります。
(「当てはまる」と回答した児童は、生駒市 72.5%、奈良県 70.8% 全国 70.7% 生駒市中学校 45.7%)
- 学校のきまりを守ろうとする意識は児童生徒ともに全国に比べてやや弱くなっています。
- 小学校では、ほとんどの児童が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。一方中学校は、奈良県より 3 ポイント、全国より 4.2 ポイント下回っており、小学校の児童と比べて 16.2 ポイント下回っています。
(「当てはまる」と回答した生徒は、生駒市 67.9%、奈良県 70.9% 全国 72.1%、生駒市小学校 84.1%)

学習について

- 児童生徒ともに、1 日あたり学校の授業以外に勉強している時間は、奈良県や全国を大きく上回っています。
(普段に 3 時間以上勉強する児童は、生駒市 21.9% 奈良県 17.3% 全国 11.2%)
(普段に 3 時間以上勉強する生徒は、生駒市 25.3% 奈良県 24.0% 全国 10.4%)
- 小学校では、普段の授業で自分の考えを発表したり友達との間で話し合う活動を行ったりすることが多いと思っている反面、自分の考えを他人に説明したり文章に書いたりするのは難しいと感じている児童が 57.6%います。一方中学校は、普段の授業で自分の考えを発表したり友達との間で話し合ったりする活動が少ないと思っています。また、自分の考えを他人に説明したり文章に書いたりするのは難しいと感じている生徒が 70.5%います。

- 小学校では、国語・算数ともに勉強が大切であると思う児童は約 90%を超えています。それに比べ勉強が好きだと答えた児童は約 60%と少なくなっています。中学校でも同様の傾向が見られます。また、国語が大切だと答えた生徒は 89.3%に対して、数学は大切であると答えた生徒は 79.8%ですが、国語が好きな生徒は 53.0%、数学が好きな生徒は 55.7%と逆転しています。
- 読書が好き、どちらかといえば好きと回答している児童は、奈良県、全国を上回っています。中学校の生徒は奈良県と比べて 4 ポイント、全国と比べて、9.4 ポイント下回っています。また、昼休みや放課後に学校図書館（室）にほとんど、または、全く行かないと回答している児童は 27.2%、生徒は 61.6%となっており、年々改善の傾向にはありますが、依然として多い状況です。

生駒市の取組について

< 生駒市の課題改善に向けての取組 >

生駒市では、全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった課題改善に向けて、市教育委員会と小・中学校が連携し取組を進めています。

(1) きめ細かな指導の充実

小学校 1 年生で 30 人学級、2 年生で 35 人学級を実施し、少人数学級編成によるきめ細かな指導に取り組み、学力向上や生徒指導の充実を図っています。また、子ども一人一人の実態に応じて学びのサポーターや特別支援教育支援員を配置して学習指導を支援したり学校生活の支援や補助をしたりしています。

(2) 学校図書館司書の配置

全小中学校に週 2 日学校図書館司書を配置し、読み聞かせやブックトークを行い、子どもに読書の楽しさを感じさせることで、読書時間が少しずつ増加してきました。読書により子どもの知識を増やし物の考え方の幅を広げ、豊かな人間性を育成します。

(3) 地域ぐるみの児童生徒健全育成推進協議会

学校・保護者・地域が連携し、児童生徒の健全育成を目指し取り組んでいます。中学校ごとに「子育て講演会」の実施や地域と子どもが協力し合って行う清掃活動、「地域、ふれあい、WAKU・WAKU 交流会」など、地域の人材を活用しながら児童生徒の自己有用感を高め、規範意識の醸成を図っています。

(4) いじめ防止の取組に関する調査を活用した取組

毎年 6 月をいじめ防止月間と定めて、市で教員対象にした研修会を実施しています。また、個人面談など、小中学校独自の取組を行い、いじめの早期発見、早期改善に努めています。いじめ防止に関するアンケートで明らかになったいじめ事象一つ一つに対応し、改善を図っています。いじめの状況によっては、スクールカウンセラーなどを派遣し関係機関とも連携しながら丁寧に取り組んでいます。

(5) 教員研修の充実

授業研究を中心とした校内研修を実施し、自分の考えを発表することや、友達と話し合う活動を取り入れる授業のあり方を研究する取組を行っています。今後とも、取組の成果を学力学習状況調査の結果から、確認しさらなる工夫改善に努めてまいります。

平成 27 年度 奈良県学力・学習状況調査における生駒市立学校の調査結果について

本調査は、平成 27 年度より実施されました。全国調査と比較検討することで、学校の取組の成果を把握することを目的としています。生駒市の調査の結果及び分析等を以下のとおり取りまとめました。

【調査対象】 市内 12 小学校 4 年生 1,149 名（受検者数）
 市内 8 中学校 1 年生 1,023 名（受検者数）

【調査結果】

＜教科に関する調査＞ 国語、算数・数学

- ・小中学校ともに、国語、算数・数学のすべての平均正答率が奈良県を上回っています。
- ・小中学校ともに、基礎問題に比べて、活用問題の平均正答率が低くなっています。奈良県も同様の傾向が見られます。

国 語			算数・数学		
	小学校	中学校		小学校	中学校
全体正答率(%)	65.2	77.7	全体正答率(%)	72.0	74.9
基 礎(%)	69.1	83.8	基 礎(%)	73.1	78.0
活 用(%)	48.4	54.5	活 用(%)	68.2	63.3
話す・聞く	77.9	80.6	数と計算	80.9	83.0
書 く	45.2	67.2	量と測定	73.6	66.6
読 む	58.4	72.0	図形	82.5	78.1
言語文化・国語の特質	73.3	71.3	数量関係	68.3	69.6

＜学習状況調査＞ 児童生徒質問紙調査（生活行動や学習活動に関する質問）

生活について

- ほとんどの小中学生は同じくらいの時刻に起きて、朝食をきちんと取っています。また、就寝時刻は、多くの児童は、毎日同じくらいの時刻に寝るなど、全体的に生活習慣は身につけています。一方、毎日同じくらいの時間に寝ている生徒は、奈良県と同じくらいの約 50%で、就寝時刻に不規則な傾向がみられます。

行動や考え方について

- 自分にはよいところがあると思っている小中学生は、奈良県を上回り自己肯定感が高い傾向にあります。
- 将来に夢や目標をもっている児童の割合は奈良県に比べ高い傾向にありますが、中学生はやや低い傾向にあります。
- ほとんどの小中学生が学校のきまりを守っていると回答しています。これは奈良県と同程度です。
- ほとんどの小中学生がいじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。これは奈良県を上回っています。

学習について

- 児童生徒ともに、1日あたり学校の授業以外に勉強している時間は、奈良県を大きく上回っています。
- 小学校では、普段の授業で自分の考えを発表する活動が多いと思っている小中学生の割合は奈良県を上回っていますが、中学1年生が85.1%に対し、小学4年生は51.4%と低くなっています。
- 小学校では、国語・算数ともに勉強が大切であると思う児童は約90%を超えています。それに比べ勉強が好きだと答えた児童は約60%と少なくなっています。中学校でも同様の傾向が見られます。また、国語が大切だと答えた生徒は89.3%に対して、数学は大切であると答えた生徒は79.8%ですが、国語が好きな生徒は53.0%、数学が好きな生徒は55.7%と逆転しています。
- 本を読んでいると答えた小中学生は約70%で奈良県を上回っています。また、新聞の記事を読んでいると答えた小中学生は約30%でこれも奈良県を上回っています。